

商 業

科 目 名	単 位 数	学 年	学 科
簿 記	2 単位	2 年 (選択)	普 通 科

教 科 書	簿記（東京法令出版）	副 教 材	完全段階式 標準検定簿記問題集全商 3 級 （東京法令出版）
-------	------------	-------	--------------------------------------

科目の目標	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を身に付けることを目指す。
-------	---

☆ 年間指導計画と学習のポイント ☆

	学 習 項 目	単元の評価の観点	
		①知識・技能	②思考・判断・表現
1 学期	1 簿記の基本 企業の簿記 資産・負債・純資産－貸借対照表－ 収益・費用－損益計算書－ 取引と勘定	- 資産・負債・純資産・収益・費用・当期純利益の関係や貸借対照表・損益計算書の役割・構造を理解している。 - 仕訳の意味や勘定口座への転記に関する基礎的・基本的な知識を深め、仕訳と勘定口座への転記の仕方を理解している。 - 決算に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付け、決算報告に必要な一連の流れを理解している。	- 資産・負債・純資産・収益・費用・貸借対照表・損益計算書について、主体的に学習しようとしている。 - 取引を仕訳して勘定口座へ転記することが、簿記の基本となる一連の流れであることを理解しようとしている。 - 決算の意味や全体像について把握したうえで、簿記一巡の手続きにおける決算の重要性について理解しようとしている。
2 学期	仕訳と勘定への記入 仕訳帳と総勘定元帳 試算表 決算		
3 学期	2 各種取引の処理 現金・預金 商品売買の記帳		
1 簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2 取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。 3 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

番号	評価の観点	評価基準
①	知識・技能	簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
②	思考・判断・表現	取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題に対応する力を養う。
③	主体的に学習に取り組む態度	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
定 期 考 査	1 学期期末 2 学期期末 学年末 （計 3 回）	
評 価 方 法 〈観点番号〉	以下を総合的に評価する。 ①知識・技能（定期考査、問題演習） ②思考・判断・表現（定期考査、グループワーク、レポート） ③主体的に学習に取り組む態度 （授業態度、出席状況、グループワーク、レポート）	

